

在スロバキア日本国大使館

政治・経済月報（2019年4月）

目次

内政

◆政治家に対する信頼度調査の結果	2
◆キスカ大統領の新党設立表明	2
◆次期財務相の指名	2
◆政党支持率調査結果	2

外政

◆ライチャーク外相の訪米，NATO外相会合出席	3
◆ペレグリニ首相の第8回「16+1」首脳会合出席等	4
◆安倍総理のスロバキア訪問	5
◆ライチャーク外相の第2回「一带一路」国際協力ハイレベルフォーラムへの出席等	6

経済

◆中国によるスロバキアへの投資額の減少	7
◆プジョー・シトロエンによる電気自動車の試験生産開始	7

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆政治家に対する信頼度調査の結果（2日付スメ紙）

世論調査機関AKOが実施した、政治家の信頼度に関する世論調査等の結果は以下のとおり。（同調査は、3月28～29日に実施された。括弧内は「信頼していない」と回答した人の割合。）

- (1) キスカ大統領：57%（41%）
- (2) ペレグリニ首相：52%（45%）
- (3) マトヴィチOLANO（野党）党首：36%（61%）
- (4) スリークSas（野党）党首：35%（60%）
- (5) ブガールMost-Hid（与党第3党）党首：34%（64%）
- (6) コラールSme Rodina（野党）党首：33%（62%）
- (7) ダンコ国会議長・SNS（与党第2党）党首：23%（73%）
- (8) コトレバLSNS（野党、極右）党首：22%（76%）
- (9) フリナKDH（野党）党首：21%（50%）
- (10) フィツォ前首相・Smer（与党第1党）党首：20%（79%）

◆キスカ大統領の新党設立表明（3日）

キスカ大統領は、自身の公式Facebookにビデオ動画を投稿し、新党設立を表明した。キスカ大統領の発言の内容は以下のとおり。

「我々は（3月の）大統領選挙に勝利した。次は、総選挙に勝利しなければならない。そのために、自分（キスカ大統領）は、新党を設立する。公正な人々とともに、スロバキアをより良い国に変えていきたい。大統領は政党と無関係でなければならない。新党に関する詳細は、大統領退任後の6月17日以降に公表する。」

◆次期財務相の指名（10日付スメ紙）

9日、ペレグリニ首相及びフィツォSmer党首は、スロバキア国立銀行（NBS）総裁に転出するカジミール財務相の後任に、カメニツキー国会議員（国会財政・予算委員長）を指名する旨明らかにした。

（注：カジミール財務相は11日に辞任した。カメニツキー次期財務相就任までの間は、ペレグリニ首相が財務相を兼任している。カメニツキー次期財務相は、早ければ5月上旬に任命される予定。）

◆政党支持率調査結果（23日）

世論調査機関Focusによる4月の政党支持率調査の結果は以下のとおり。Smerの支持率が20%を切るのは、2003年1月以来のことである。新党「PS」

及び「共に」は、5月の欧州議会選挙において、政党連合を形成（統一候補者の擁立）することで合意している。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	19.0%	28.3%
Progressive Slovakia(PS)+Spolu(共に)	13.4%	—
LSNS（我々のスロバキア）	10.5%	8.0%
SaS（自由と連帯）	10.1%	12.1%
Sme rodina（我々は家族）	9.4%	6.6%
OLaNO—Nova（普通の人々・独立した人達—新たな多数派）	9.1%	8.6%
SNS（スロバキア国民党）	7.5%	8.6%
KDH（キリスト教民主運動）	6.8%	4.9%
Most-Hid（架け橋）	4.7%	6.5%

外 政

◆ライチャーク外相の訪米，NATO外相会合出席（2～4日）

【3日付外務・欧州問題省プレスリリース】

2日，ライチャーク外相は，米ワシントンDCにおいて，ヴォルカー米国ウクライナ交渉担当特別代表と会談を行い，ウクライナの改革に向けた努力に対するスロバキアの長期的な支援について説明した。

【4日付外務・欧州問題省プレスリリース】

3日，ライチャーク外相は，ボルトン米国家安全保障問題担当大統領補佐官と会談を行い，今年2月のポンペオ米務長官のスロバキア訪問，二国間及び北大西洋間協力，国際情勢，スロバキアのOSCE議長国としての優先事項に係る具体的な協力の可能性について話し合った。ライチャーク外相は，「米国は，NATOにおいてもEU・米国関係においても，最も密接なパートナー及び重要な同盟国であり続ける」と述べた。

4日，ライチャーク外相は，ワシントンDCで行われた，NATO創設70周年を記念するNATO外相会合に出席し，演説を行った。ライチャーク外相は，本年スロバキアがNATO加盟15周年を迎えたことに言及するとともに，「北大西洋の安全保障及びスロバキアの国防にとって，NATOの代わりになるものは存在しない」と述べた。

同日，ライチャーク外相は，米国側のイニシアチブで行われた「V4＋米国」外相会合に出席し，安全保障及び国防上の問題や，V4諸国と西バルカン及び東方パートナーシップ諸国との関係等について話し合った。米国からは，サリバン米務副長官が出席し，中欧諸国との二国間及びV4レベルでの対話と協

力の促進に関心を示した。

◆ペレグリーニ首相の第8回「16+1」首脳会合出席等（12日付TASR通信）
【李克強中国国務院総理との会談】

11日、ペレグリーニ首相は、「16+1」首脳会合のためにクロアチア・ドブロブニクを訪問し、李克強中国国務院総理と会談を行った。ペレグリーニ首相は、「スロバキアは、ファーウェイ社を巡る大国同士の貿易戦争に引きずりこまれたくはない。中国企業の製品が、スロバキアの法規制による安全面及び技術面での要件を全て満たしている限り、我々は中立の立場を取り、健全な競争環境を作り出す。スロバキアは、同要件を満たしているグローバル企業がデジタルインフラ整備事業に参加することを禁止しない」と述べた。

双方は、東スロバキアとオーストリアを結ぶ広軌鉄道建設計画についても話し合った。ペレグリーニ首相は、「同計画はまだ有効であり、ロシア及びオーストリアとの協議が行われている。同計画は、中国の銀行及び投資ファンドの関心を呼ぶものである。スロバキアは、中国製品の欧州輸送網において、重要な役割を担いたい」と述べた。

ペレグリーニ首相は、「スロバキアは、主要インフラ建設事業への中国企業の入札参加を歓迎するが、スロバキア又は欧州の労働者が建設現場で働くことが条件となる。ただし、戦略的な投資については、スロバキア人の手に残されるべきである」と述べた。

【第8回「16+1」首脳会合への出席】

12日、ペレグリーニ首相は、第8回「16+1」首脳会合において、スロバキアと中国の3つの協力分野を発表した。

1つ目の分野は、中国と欧州間の商品の輸送である。ペレグリーニ首相は、「広軌鉄道建設計画の他に、東スロバキアにおける物流センター建設計画もある。同センターは、アジアから欧州、そして欧州からアジアへの商品輸送のハブとなることを見込まれている」と述べた。

2つ目の分野は、科学技術である。ペレグリーニ首相は「ブラチスラバに先端技術センターを設置することを計画している」と述べた。

3つ目の分野は、農産物貿易である。12日、スロバキアと中国は、同会合において、スロバキア産乳製品の中国への輸出に関する協定に署名した。今後2か月以内に、スロバキアの乳製品メーカーは、スロバキア国立獣医・食品安全局（SVPS）及び中国当局より、中国への輸出に係る許可書を取得する見込みである。

◆安倍総理のスロバキア訪問（24～25日）

【首相府プレスリリース（25日付）】

25日、ブラチスラバにおいて、「V4+日本」首脳会合が行われた。V4各国の首脳は、G20議長国を務めている日本との国際協力の意義を強調した。ペレグリニ首相は、「多国間主義が危機に瀕している中、我々が直面している重要な課題について、国際的な解決策を見出すことが重要である。地域、国レベルの解決策を受け入れることは、多くの場合適切ではない」と述べた。ペレグリニ首相は、「V4諸国は、EUで最も成長が速い地域の一つである。V4は、EUが直面している重要な問題に対して、類似の、あるいは共通の立場を取っている」と指摘するとともに、「V4と日本の首脳は、科学技術協力や、今年2月に発効した日EU経済連携協定（EPA）に関する協力について話し合った」と述べた。またペレグリニ首相は、重要な国際グループの議長国を務めている日本とスロバキアは、共通のテーマで結びついている旨指摘するとともに、「デジタル経済、デジタル企業に対する課税、データの管理、保護及び取引が、共通のテーマである」と述べた。

安倍総理は、「堅調な経済成長が、欧州におけるV4諸国の重要性を高めており、多くの日系企業が、工場や支店をV4諸国に設置している」と述べ、強固で安定したスロバキアの自動車産業、チェコのロボット産業、ポーランド及びハンガリーにおける企業の活動を具体例として挙げた。また安倍総理は、「日系企業は既に、V4諸国の大きな可能性に気づいている」と述べるとともに、V4諸国との経済協力を評価し、発展を促すことが重要である旨付言した。安倍総理は、国際社会の様々なテーマについて、V4諸国と更なる協力を行うとの点で一致した。

ペレグリニ首相は、V4首脳会合の前に、日本の総理としてスロバキアを初めて訪問した安倍総理との個別会談を実施した。双方は、今年7月に発効する社会保障協定を特に評価した。

【経済新聞（26日付）】

スロバキアと日本の首相が史上初めてブラチスラバ城で握手を交わした。双方は、首脳会談において、ビジネス関係の強化について話し合い、企業の財政的負担を軽減する社会保障協定への支持を表明した。安倍総理はペレグリニ首相との個別会談の他、V4首脳会合にも出席した。

双方によると、7月1日に発効する社会保障協定が、ビジネス関係の発展に新たなインパクトを与えることになる。スロバキアには64社の日系企業が進出し、約1万3000人（当館注：正しくは約1万人）の雇用を創出している。安倍総理は、「多くの日系企業がV4諸国に拠点を置いている。欧州の中心に位置するスロバキアは地理的優位性を有していることから、自動車メーカーが

スロバキアに拠点を置くことは理に適っている」と述べるとともに、日系企業は、スロバキアのイノベーション分野にも関心がある旨付言した。安倍総理は、日本は自動車用代替動力エネルギーにも関心を示しており、スロバキアが代替エネルギーを用いる自動車生産の中心となる可能性がある旨述べた。

安倍総理は、貿易障壁を取り除くことになった日EU経済連携協定（EPA）も強調した。同協定は、今年2月に発効した。安倍総理は、現時点ではスロバキアによる日本への投資は限られているが、スロバキアによる日本への更なる投資を歓迎する旨述べた。

◆ライチャーク外相の第2回「一带一路」国際協力ハイレベルフォーラムへの出席等（24～25日付外務・欧州問題省プレスリリース）

【王毅国務委員兼外交部長との会談】

24日、ライチャーク外相は、第2回「一带一路」国際協力ハイレベルフォーラムに出席するために北京を訪問し、王毅国務委員兼外交部長と会談を行った。双方は、二国間関係の更なる強化や、政治及び経済面での交流の促進に関心を示した。ライチャーク外相は、「スロバキアは、地理的優位性とトランジット国としての潜在性を活用できるイニシアチブを支持している」と述べるとともに、両国の間で設定された学術協力等に関する目標を達成するために、中国との対話を強化する用意がある旨付言した。

ライチャーク外相は、「中国の大学で、約60名の学生がスロバキアの言語と文化を学んでいること、また、37名の中国人がスロバキアの大学に留学していることを評価する」と述べた。

【第2回「一带一路」国際協力ハイレベルフォーラムへの出席】

25日、ライチャーク外相は、第2回「一带一路」国際協力ハイレベルフォーラムにおいて、「『一带一路』構想の各アクターが政策を一致させることができれば、更なるインフラ発展を後押しすることができるだろう」と述べるとともに、「スロバキアは『一带一路』構想の枠組みにおいて、平等な条件及び国際的な規範と基準に基づく経済協力の強化に向けて、今後も努力していく」と強調した。

ライチャーク外相は、「強固な自動車産業を有しているスロバキアは、ユーロ圏の中で最も急速に成長している国の一つである。スロバキア政府は、トランジット国としての潜在性を最大限活用するために、鉄道分野への投資を必要としている」と述べた。

経 済

◆中国によるスロバキアへの投資額の減少（3日付 TASR 通信）

コンサルティング会社Bisnodeによると、スロバキアにおける中国人が経営している企業数は昨年と比べて減少し、また、中国によるスロバキアへの投資額（ストック）も初めて減少傾向に転じている。現在、スロバキアには、中国人が経営している企業が1309社あり、これまでに計3200万ユーロ以上投資している。

Bisnode社のシュチェパーノヴァー氏は、「スロバキアにおける中国企業数が最も多かった2011年と比べて、同企業数は359社減少した。2018年、中国による投資額（ストック）は3220万ユーロに達し、過去最高を記録したが、本年1～3月の指標によると、中国による投資額は減少傾向にある」と説明した。

◆プジョー・シトロエンによる電気自動車の試験生産開始（5日付プラウダ紙）

プジョー・シトロエン（PSA）トルナバ工場は、Peugeot 208モデルの電気自動車（EV）の試験生産を開始した。PSAは、今年末までにEVを欧州市場に出荷する見込みであり、2020年に数万台のEVを生産することを計画している。

PSAトルナバ工場は、13年前に操業を開始して以降、約300万台の自動車を生産してきたが、EVの製造は初めてとなる。PSAの自動車は、60か国に輸出されている。PSAグループは、2025年までに、ガソリン車及びディーゼル車の全ての車種に、EVのオプションを加えることを検討している。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

